

009
011
012

From Editor
表紙の時計 / ウブロ ッビッグ・バン・ウニコ・レッドマジック
Editor's Choice!

020
022
027
030
032
035

ヴァンクリーフ&アーペル ミッドナイトユール デイシエールダイヨールウォッチ
ジャケ・ドロー・グラン・セコンドスケルトン / ハリー・ウィンストン プロジェクト Z12 / ブレゲ マリーン 5517
フランパン ブイフティファゾムスバチスカーフ アニユアルカレンダー
モンブラン モンブラン スターレガシー ニコラ・リューセック クロノグラフ
H.モーター エンデバー センターセコンド コンセプトブルーホライズン / RJ アローマリン 45MM
世界は時計で回っている。

028
027

パテックフィリップのニューモデルたち
バリエーションの充実、そしてトウエンティーフォーに自動巻きが登場
ウブロ MP11
ユニークな形状のサファイア・ケースにみるウブロの開発意欲
ベル&ロス BR 01 ラッフィング スカル
オートマトンを装備して迫力を増したスカル
ブルガリ オクト

030
032

ブルガリ・ウォッチの核としてバリエーションを広げるオクト
タグ・ホイヤーの新旧クロノグラフ
古き良き時代を礎に現代に受け継がれるクロノグラフ

【特集】新工場 ヌマフアクトウールツェントルム 竣工で新たな扉を開けた
IWC 150周年

054
060

オメガ新工場を訪ねて
人の手と先端技術の融合、そして環境との調和
ラドールのセラミックス製造

ラドールのイノベーションの現場を世界初取材

066	カシオ 誕生から35年目にして登場したフルメタルのG5000
072	テイン パナナウオッチ 短命に終わったアール・ヌーボー調デザインが現代に甦る
074	オリスの 第55回リノ・エアレース・リミテッド・エディション / T-T エンジン・デイト / ニュー・モデル ビッグクラウン・ブロンズ・ポイント・デイト
076	オリエント デイ・プレッドの文字盤が表現する往年のオリエントの個性
078	シチズン 創業100周年を記念して復刻されたユニーク・モデル
080	パナライ ミラジオミール1940スリーデイズ
081	ボーム&メルシエ クリフトン
082	ペキエ 日仏交流160周年記念
083	ブルガリ リルチエ
084	エルアンドジェイアール ステッパー
085	カシオ シシアナス
086	新製品情報
090	ブルガリ ホスピタリティ&ルネッサンス
094	チューダー 日本上陸
096	チユチマ グラスヒュッテ 日本再上陸発表会
098	ブライトリング プレミエ・コレクション& ジャパン・レーサー・スクワッド
100	ヴァシロン・コンスタントン ブイフティ・シックス トゥールビヨン
101	日新堂 大阪ヒルトンプラザ店 移転オープン
102	パナライ 銀座ブティック 移転オープン
103	リシャール・ミル ブティック銀座 移転オープン
104	ラルフテックが支援する ゴールドングローブレース
105	アワグラス銀座でアーミン・シュトローム取扱い開始 レゼルボワールが日本での販売を開始
106	112 インフォメーション / 問い合わせリスト / 次号予告

パテック・フィリップのニュー・モデルたち

バリエーションの充実、そしてトウエンティイ・フォーに自動巻きが登場

今年、パテック・フィリップはノーチラスに永久カレンダーRef.5740G、また、カラトラバ・パイロット・ウォッチにはペアが登場した。さらに自動巻きのトウエンティイ・フォーが誕生。これらの概要をみてみたい。



新たにパーベチュアル・カレンダーとムーンフェイスなどを装備したノーチラス永久カレンダーRef.5740G。18Kホワイトゴールド・ケースで、3時がマンズ+リープ・イヤー表示、6時がデイト+月齢、9時がデイ+24時間計。価格は1400万7600円。同じくニュー・モデルの18KWGカフ・リンクスRef.205.9057G-013は66万9600円。

ノーチラス永久カレンダー

Ref. 5740G

2006年に登場した現行の4代目ノーチラスは、12気圧／6気圧防水機能を備えたスポーツ・ウォッチであり、これまでにクロノグラフをはじめとするバリエーションが製作されているが、初のコンプリケーション・モデルとなる永久カレンダー+ムーンフェイスが加わった。ケースとダイヤルは18KWGとブルー・ソレイユの組み合わせがなされた。特筆すべきは日付けとムーンフェイスの調整用レクター・ボタンをケース本体ではなく、3本のラグと、左側の「耳」に装備することだが、これにはカムプシヤーの先に絶妙なカムなどが使用される。6気圧防水の40mmケースには、デイ・デイト、マンズ、リープ・イヤーと24時間計、月齢を備えたCal. 240Qオートマティック(27石、振動2万1600、パワーリザーブ最大48時間)が搭載される。

カラトラバ・パイロット・トラベルタイム

Ref. 5524R / Ref. 7234R

ホーム・タイムとローカル・タイムを2本の短針で知らせてくれるのが、このパイロット・トラベルタイムで、両者の時刻に便利な昼夜表示が付き、後者にはポインタース・デイトを装備するのが特徴。2015年にジェンツとレディースの両モデルが18KWGでデビューしたが、今年からは新たに18KR Gモデルが登場した。ダイヤルはブラックに代えてブラウン・ソレイユを装備しており、デイト・サークル内の「1日」の数字にもブラウンが使われる。6気圧(レディース3気圧)の防水機能とスクリュー・ダウン式のクラウンを装備したケースは、直径42.0mm(同37.5mm)で、ともに自動巻きのCal. 324 SC FUS(29石、2万8800振動、パワーリザーブ最大45時間)を搭載。ストラップはヴァンテージ・ブラウンのカーフ・レザーを装備する。

新工場竣工で
新たな一歩を踏み出した



IWC150周年

オメガ新工房を訪ねて

人の手と先端技術の融合、そして環境との調和

今年11月、オメガは全製品の保証期間を5年に延長することを発表した。この背景には1万5000ガウスの耐磁性を保証するマスタークロノメーター認定制度の本格的な導入があるが、それを確実なものとしたのが昨年にオープンした最新設備を整えた新工房だ。



1882年にオメガはスイス・ビール／ビエンスの市内に時計製造工房を設けたが、今日もそこを拠点とする。そして昨年、本社に隣接した場所にガラス張りの新工房がオープンした。設計を担当したのは日本人建築家の板茂氏。同氏は東京・銀座にあるスウォッチグループジャパンのニコラス・G・ハイエック・セン

ター(2007年)を手がけたほか、数多くの作品が世界各国に点在する。リサイクル可能な資材や木を多用し、また自然光を取り入れるためのガラス張りが特徴で、オメガの新工房も例外ではない。ガラスで覆われた建物の周辺には木が植えられ、1階のエントランスには大きな鉢植えが置かれ、光や緑という自然が重視されたことが分かる。

オメガが新工房建設を意識したのは2007年頃だったという。増産のためには製造効率を高くし、人々の動線を合理化し、より良い環境を作ることが必要だった。そしてリーマン・ショックの影響が落ち着いた2010年に建築家のコンペを行い、板茂氏に決定した。

工房に入るとまずセントラルストックが目に入る。建物の中央に設けられた完全自動化された部品の保管倉庫だ。工房にムーブメントの完成品やケース、文字盤、針、それらを組み立てるために必要な部品が到着すると、検品後にセントラルストックに納められる。ストックされる

部品の数は500万から600万個に及ぶ。

ストック内には2基のリフトがあり、それぞれに2基のトランスストックカーが備わり、このトランスストックカーが収納作業を行う。必要な部品を取り出すときにはトランスストックカーが該当する箱をセントラルストックの外に運び出し、ロボットアームが箱を開けて部品を取り出し、部品は全長518mのコンベアに乗って該当フロアの該当部門に運ばれる。1時間にこうした作業が約1400回繰り返されるという。

ストック内は防火の目的で、酸素の割合を空気中の20・95%に対して15・20%にすぎないため、特定のスタッフ2名のみが入ることを許されている。

このような完全自動化のストックシステムはスウォッチグループではティソとロンジンですでに採用されるが、オメガ新工房では建物のなかに異和感なく溶け込み、外からトランスストックカーやロボットアームの動きを見ることができ

ところでオメガではムーブメント製造はETAの協力を得ている。3針はスイス・ヴィルレに2015年に新設したオメガ専用工房で、クロノグラフはグレンヘンの工房で組み立てられ、COSCの検査に送られる。COSC認定を受けた後に新工房に運ばれ、まず4階にある1万5000ガウスの磁場テストを受ける。これに合格すると3階でおよそ120人のオペレーターたちの手でケーシングまでの工程が行われる。

その後、再び4階でマスタークロノメーターのテストを行い、認定を受けると2階に移され、手作業でブレスレットやストラップを取り付ける。最終の目視検査を行い、ロボットアームがケースにシリアルナンバーを刻印し、個々の時計に適合したマスタークロノメーターの認定書と保証書をセットする。そして手作業による梱包に回される。完成品はすぐに出荷されるが、一部は2階に設けられたウォッチストックに納められる。先端的な機械と人の手が役割を分担して製造される数は現在、年間約70万個におよぶ。

ラドローのハイテクセラミックス製造

ラドローのイノベーションの現場を世界初取材

ハイテクセラミックスのリーダー的存在であるラドロー。その技術開発の核というべきグループファクトリー、コマデュール社を世界に先駆けて取材した。RGカラーとSSカラーを纏った新素材セラモスの製造プロセス、またマティアス・ブレシヤンCEOの展望もお届けする。

取材・文／まつあみ靖



『ラドロー ダイアマスター ハイライン』2018年の新作。ポリッシュ仕上げした、直径43mmのモノブロック構造のブラックハイテクセラミックケースを採用。オフセンターのレイアウトや、ギアトレインが表側から見えるなど、ミニマルでユニークなデザインが目を引く。自動巻きのETA2899-S2(21石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約42時間)を搭載する。5気圧防水。30万7800円。



『ラドロー ダイアマスター ブチセコンド オートマティック コスク』金属を使用せずにメタリクかな外観を実現した、モノブロック構造による直径43mmのポリッシュ仕上げプラズマ ハイテクセラミックケースを採用。シリコン製ヒゲゼンマイにより信頼性を向上させ、最大80時間のパワーリザーブを実現したCOSC認定の自動巻きETA C07.881(25石、毎時2万8800振動)を搭載する。5気圧防水。26万4600円。

「マスター・オブ・マテリアル」の異名を持ち、超硬素材やハイテクセラミックのリーダー的存在とされるラドロー。その前身となるシュラップ社は1917年に創業し、当初は主にアメリカ向けのムーブメント製造で業績を伸ばしていた。50年代に入ると時計業界内の競争激化を受け、完成品の腕時計製造に経営路線を変更。1928年に商標登録していた、「エスベラント語で「車輪」を意味する「ラドロー」の名を冠した腕時計コレクションを1957年に発表し、ほどなく社名もラドローに改める。60年代に入ると、競合他社との差別化を図るべく、ムーブメントよりもエクステリアに注力する方針を打ち出し、外観の美しさを長期にわたって保つ、スクラッチ・レジスタント・ケースの開発に乗り出していく。

後、76年にはメタライゼーションサファイアクリスタルがスクエアケース全体を覆った『DIA 67 グリシエール』、02年にはハイテクダイヤモンドで時計ケースをコーティングした究極のスクラッチレジスタント時計『V10 K』などを発表し、耐傷性時計の第一人者というポジションを確立していく。

もうひとつラドローが注力した素材がハイテクセラミックスである。86年には、他にさきがけてハイテクセラミックスをケースとプレスレットに採用した「インテグラル」を発表。硬度の高いハイテクセラミックスは加工が難しく、当初は角型などの直線的なフォルムのものしか作ることができなかったが、7年ほど前に開発されたインジェクション（射出成型）という技術が、大きな変革をもたらした。

それまでは、セラミックスの原料を型でプレスし、それを焼結してケースが作られていたが、インジェクションでは、原材料をポリマーと混合してペースト状にした後、精密な型に射出。その後、樹脂を除去してから焼結する。これにより、ラウンド、薄型など多彩な形状のケース製造が可能になった。

インジェクション開発当初は、ムーブメントをSSなどのインナーケースに収め、その上にハイテクセラミックス製ケースを被せる方法が採られていたが、さらに製造精度を高め、インナーケースのいらぬモノブロック構造を開発。これもラドロー独自の技術である。

競合他社でも、リュウズやプッシュャーなどの小型のパーツをインジェクションで製造する場合はあるが、インジェクションで製造したケースを採用しているのは、現状ラドローだけである。

また、プラズマ加工によるメタリクかな色調を纏ったハイテクセラミックス・ケースに加え、グレー、ブラウン、グリーン、ブルーなどの多彩なカラーや、セラモス、シリコンナイトライドなどの先進的ハイテクセラミックス・ケースも実現し、ラドローはこのカテゴリーの先頭を走り続けている。

上海でお披露目されたアイコンニック・モデルの新作



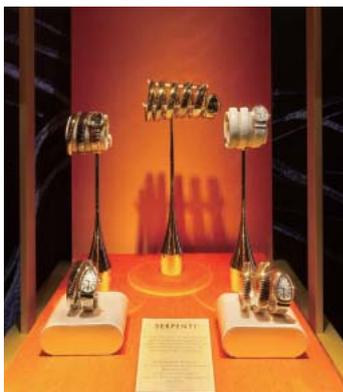
ブルガリ グループCEOのジャン・クリストフ・ババン氏。2013年にブルガリが属するLVMHグループのタグ・ホイヤーCEOから現職に就き、薄型ムーブメントの開発などでブルガリの時計製造の強化を図る。



ブルガリ ウォッチ デザイン センター シニア・ディレクターのファブリツィオ・ボナマッサ・スティリアーニ氏。



中国人オペラ歌手のマリア・マさん(右)と共にカンツォーネを披露するブルガリ グループ ウォッチ部門マネージング・ディレクターのガイド・テレニ氏。



今日、「セルペンティ」はトゥボガス・ブレスレットを組み合わせた多様なモデルが展開される。

9月27日、ブルガリはブルガリホテル

上海で時計の新作発表会を開催した。現在、ブルガリは世界6都市でホテルを展開するが、上海はその6番目として今年6月にオープン。上海の歴史保存建築物でもある旧上海商工会議所と、それに隣接して建設された48階建てのホテルとレジデンス棟から成る。蘇州河岸部の再開発が進められている地域であり、最上階からは外灘（バンド）や高層ビルが立ち並ぶ浦東金融街を眺めることができる。ブルガリグループCEOのジャン・クリストフ・ババン氏も顔を見せた新作のプリゼンテーションは内装、外装ともに1916年に建てられた当時のままに修復された趣ある建物のなかで行われた。

新作は「オクト」からグラランド・コンプリケーションとアンティーク・コインをあしらったトゥールビヨン、「セルペンティ」からハイジュエリー・ウォッチが登場した。2012年に誕生した「オクト」はすでにブルガリを代表するコレクションとなり、一方の「セルペンティ」は1940年代から続くアイコンニックな存在である。

ババン氏は「ブルガリは40年ほど前に

時計製造を本格化して、ブルガリ・ブルガリが誕生しました。今日の主流である「オクト」や新しい「セルペンティ」、そして「ルチエア」は発表からまだ数年で、一般的な知名度の広がりはまだこれからです。他の時計ブランドのように誰もが知るアイコンニックなモデルを育てていくには時間が必要です。今はまさに時計ブランドとして確立するための長い旅路のスタートを切った、といえます」と語り、ブルガリの顔として長く愛される時計の必要性を強調した。

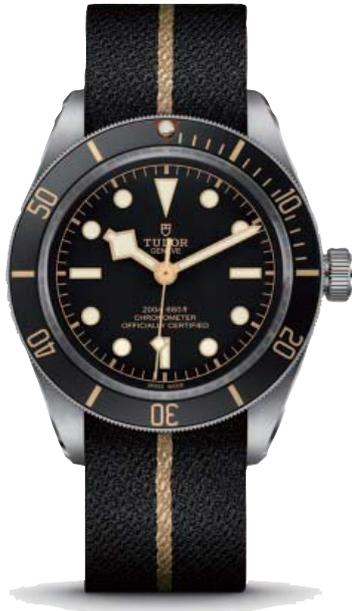
「イタリアのデザインには、控えめなスイスや装飾的なフランスと異なったコンテンポラリーで明るい個性があります。特にブルガリはローマに根ざし、古代ローマの建築物などから着想を得ることができるといふ恵まれた環境にあります。一方、時計製造に関してはダニエル・ロートとジェラルド・ジェンタで培われた複雑時計製作の高度なノウハウがあります。イタリアのデザインと古代ローマに通じるDNA、そしてスイス時計の技術を融合すれば、時計ブランドとして必ずメジャーになります」

ババン氏の時計に賭ける意気込みは強い。

名称を改め、過去の代表作に着想を得たモデルと共に登場



発表会場には創立からの歴史や今日のアンバサダーのデイヴィッド・ベッカム、ラグビー・ニュージーランド代表のオールブラックスのパネルが展示され、ブランドが紹介された。また技術者たちによる製品の説明も行われた。



「ブラックベイ フィフティ・エイト」。直径39mmのSSケースに自社製自動巻きのCal.MT5402(27石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約70時間、COSC認定クロノメーター)を搭載する。逆回転防止ベゼル。200m防水。ファブリック・ストラップ。価格34万5600円。



「ブラックベイ GMT」。直径41mmのSSケースに自社製自動巻きのCal.MT5652(28石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約70時間、COSC認定クロノメーター)を搭載する。24時間目盛りを施した48ノッチの両方向回転ベゼル。200m防水。レザー・ストラップ。価格37万8000円。

10月29日、東京都内でチューダーの日本上陸を記念した発表会が開催された。かつて日本では「チュードル」と呼ばれていたが、「チューダー」と改められ、本格的にスタートを切ったのだった。会場では新作を展示するほか、パネルを通してその歴史や現在が表現された。

日本では代表的なコレクションの「ブラックベイ」「ペラゴス」「ヘリテージ」が展開される。ブラックベイではチューダーが1950年代に製造を開始したダイバーズ・ウォッチのデザイン要素を見ることが出来る。ドーム型の文字盤とサファイアクリスタル、バラの花を刻んだ大型のリユーズ、スノーフレックと呼ばれるスクエア型針が特徴だ。2012年に現在のコレクションの最初のモデルが発表され、2015年にはその一部には自社製ムーブメントが搭載された。今日では、バリエーションを広げ、1958年のチューダー初のダイバーズ・ウォッチに着想を得た「ブラックベイ フィフティ・エイト」やバーガンディーとディープブルーのベゼルを備えた「ブラック

ベイ GMT」、自社製クロノグラフ・ムーブメント搭載の「ブラックベイクロノ」をラインアップする。またスチールやスチールとゴールドのコンビネーション、ブロンズ、ブラックPVD加工のSSケースの自動巻き3針モデルも揃う。「ペラゴス」は500m防水のダイバーズ・ウォッチで、2012年に発表された。このコレクションも2015年から自社製ムーブメントが搭載される。プレスレットはチタニウム製だが、スプリングによって自動的に長さ調節が可能なシステムを備えたスチール製フォルディング・クラスプが付き、この機構でチューダーは特許を取得している。

「ヘリテージ」は1970年代のクロノグラフに着想を得たもので、2010年に登場した。現在、「ヘリテージクロノブルー」と「ヘリテージクロノ」があり、いずれも2カウンスターの自動巻きクロノグラフを搭載する。

現在、伊勢丹新宿店、大丸東京、タカシマヤウォッチメゾン東京・日本橋、阪急うめだ本店に販売店が設けられている。

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Correspondent
Washington, D.C. Bureau
(Pictorial Press International)
Mikako Burks

Cover Photo/
Takenori Aoki (WPP)

●本誌に掲載されている価格は
平成30年11月30日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税込の総額表示です。
© WORLD PHOTO PRESS 2019

【次号予告】

2019年 「ジュネーブ編」 新作情報

2019年1月14日から17日までの4日間にわたって第29回SIHHが開催されます。例年よりも会期が1日短縮され、ヴァンクリーフ&アーペルが出展を中止し、ボヴェが久々に参加するなど、出展社にも再び変化がみられます。

そしてオーデマピゲとリシャール・ミルは最後のSIHHとなるなど、時計業界が転換期を迎えていることを示しています。

リシュモングループに属する各メゾンは過去2〜3年でCEOが40代へと若返り、製品やマーケティングに彼らの個性が見え始めてきました。

こうしたなかでどのような新作が登場するのでしょうか。

またSIHHでは来年も小規模な独立系ブランドが集まる「カレ・デ・ゾルロジエ」が設けられますが、彼らのユニークな製品も楽しみです。

次号もブランド別に主だった新作をご紹介します。

「話題の新作をレポート」

2018年に発表された新作のなかから興味深いモデルを掘り下げます。

「世界の腕時計」第139号は2019年3月8日発売予定です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします！

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,584円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
- インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
- 携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>
- QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト:<http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合:cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承ください。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1188

世界の腕時計

No.138

平成31年1月10日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部……………☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部……………☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。